

近代の国づくり（1867～1900） その2

《現役最古の近代橋梁は、多摩川にある！・・・中央本線上り線橋梁》

ニューヨークにはブルックリン橋（1883年完成）、ロンドンにはタワー・ブリッジ（1894年完成）が、現役の近代橋梁として観光名所になっています。（注1）

なんと多摩川には、甲武鉄道が敷設した橋梁が、現役で活躍しています。完成年は、1889年（明治22）。ブルックリン橋の6年後、タワー・ブリッジの5年前になります。形式は、プレートガーターという、土木工学で最初に学ぶ鉄橋です。鍛鉄（れんてつ）という、鑄鉄（ちゅうてつ）より炭素含有量が少ない鉄で製造されています。（注2）

では、東海道本線の多摩川にかかる橋梁（六郷川橋梁）は、どうなのでしょう。実は、1872年（明治5）に開通した新橋－横浜間の鉄道には、22の橋がありましたが、すべて木で作られたトラス橋でした。鉄材の輸入・橋梁製作に時間がかかり、間に合わなかったのです。蒸気機関車が走る木製トラス橋を2代目歌川広重が描いています。（写真③）。

その後、1877年（明治10）、日本最初の複線用鉄橋として、鍛鉄製のトラス橋が架けられます。お雇い外国人ボイル（イギリス人）が設計し、イギリスで製作されたものを輸入したものです。（注3）

この橋は、1912年（明治45）に、複々線化されたときに外され、御殿場線の酒匂川橋梁に転用された後、1965年（昭和40）にその役目も終えて明治村に展示されています。

なお、現在の六郷川橋梁は、4代目となります。

注1：近代橋梁として世界最古のものは、イギリスにあるアイアンブリッジです。世界遺産になっています。

日本で最初の鉄製橋梁は、道路橋で、長崎造船所で製造され、1868年（明治元）中島川に架けられたくろがね橋（鍛鉄桁：橋長21.8m）とされます。当時の橋は現存せず、現在は三代目の橋。外国人の指導を受けたと思われます。

日本最古で現存するのは、旧弾正橋です。1878年（明治11）工部省赤羽製作所がアメリカ人の設計をもとに製作したもので、現役を退いて移設され、富岡八幡宮の近くの八幡堀遊歩道として現存。

注2：同じ形式の鍛鉄製の橋梁が、埼玉県深谷市の福川に架かる福川橋（公園内に移設）があります。一説には、福川橋が日本最古の鉄製橋梁とされていますが、土木学会の現地調査の結果、多摩川橋梁の方が1年早いとされています。なお、現代の橋梁は、鋼鉄（こうてつ）で造られますが、これは鍛鉄よりさらに炭素含有量を少なくした鉄であり、当時はまだ普及していませんでした。

注3：日本人で初めて橋梁設計を行ったのは、原口要（生没年：1851－1927）で、1882年（明治15）架橋された東京の亀島川の高橋（たかばし）でした。近代製鉄の国産化は、釜石製鉄所で1886年（明治19）のこと。ですから、1877年（明治10）当時、鉄製橋梁は外国に頼らざるを得ませんでした。

写真は、①中央本線多摩川橋梁上り線（細見撮影）、②明治村にある２代目六郷川橋梁（博物館明治村HP掲載写真）

①



②

